平成二三年九月学位記授与式告辞

本日ここに学位を授与された諸君に、東北大学を代表して心よりお祝い申し上げます。また、留学生の諸君においては、言葉、文化、習慣などの壁を克服し、学位を取得された今日までの努力に対して深く敬意を表します。そして、今日の日に至るまで諸君を支えてこられたご両親、ご家族、関係者の皆さまにも、心からお慶び申し上げます。

三月一一日に発生した東日本大震災から早くも半年余が経ちました。歴史上かつてない未曽有の大災害に直面し、多くの人々が命を奪われ、本学では入学予定者を含め三名の学生がその犠牲となりました。また、被災された方々は今なお想像を絶する艱禍の最中にあります。私は、この大震災の悲惨な現実を直視するごとに、深く心が痛みます。その心情は諸君もきっと同じであると思います。まずは諸君とともに、あらためて、被災されたすべての方々に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、その犠牲になられた方々に対し、深い哀悼の意を表します。

さて、現代社会はその変化が速くかつ不連続であり、これまでの常識を覆すような事態が次々と起こる予測困難な時代です。国際金融問題をはじめ、気候変動、エネルギー枯渇、テロ、パンデミック、食糧問題、高齢化といったメガ・イシューが顕在化し、政治、経済、産業のいずれにおいても先行きの不透明なまま大きく揺れ動いています。そして今回の大震災の悲惨な現実を直視したとき、この現代社会、そして未来を担う諸君は、何を思い、何ができ、何をすべきなのでしょうか。

東北大学は、これまでも、今も、そしてこれからも、常に垂直登攀（とうはん）に挑戦し続ける大学です。この大震災の衝撃と悲嘆の中でも、被災地や日本を襲う困難に向き合って、献身的な貢献活動と同時に、地域社会の復興・発展に向けた悲しみを希望に変える活動に総力をあげています。加えて、本学の教育力、研究力、そして社会貢献力を大きく飛躍させて、世界リーディング・ユニバーシティとして人類社会に貢献していくことも本学の役目だと考えています。

本日ここに学位を授与された諸君は、その東北大学で、「Challenge（挑戦）」、「Creation（創造）」、「Innovation（革新）」という3つのキーワードを基軸に行動する研究マインドをもって、それぞれの専門分野において深い研鑽を積み、高い学識を修得しました。本学で学んだ諸君には、それだけ大き

な期待を抱いています。私たち東北大学の一同とともに、大震災と原発事故という過酷な共通体験を胸に、東北大学で学んだことに確信をもち、社会に貢献するために何をすべきかをよく考え、それぞれの活躍の場で、これからの日本の復興・飛躍あるいは地球社会の最前線を担っていただきたい、そのように願っています。

そこで今、あらためて「Innovation（革新）」というキーワードについて考えてみたいと思います。

今、現下の日本を世界が注目しています。日本人の共助の精神が称賛されるとともに、日本はこれらのメガ・イシューをどう乗り越えていくのか、その力量が試されています。しかし正直なところ、日本は余り元気がありません。諸君も実感していると思います。私たちは、持続可能な社会を創り出す過渡期、すなわち百年に一度のパラダイムシフトの真っ只中を生きているのかもしれません。「九・一一」がアメリカ、そして世界を変えたように、「三・一一」が日本、そして世界を変える。誤解を恐れずに言えば、「戦後」という時代にピリオドが打たれ、「大震災後」という新たな時代へと歩み始めたのです。

パラダイムシフト論とは、かつて科学史家トーマス・クーンが提唱したもので、ある時代に支配的な思考モードが、新たな別の思考モードに変わるとするものです。パラダイムシフト時には、古い思考モードが崩壊する一方、新しい思考モードが創られ始めています。では新たな思考モードとはどのようなものでしょうか。パラダイムシフトは座して待てば行われるというものではありません。その解として、今ほど“Innovation”という推進力が求められている時代はないと思います。

実は、この“Innovation”が必要だという議論は、経済学者シュペンターが提唱した、経済成長を起動するのは企業家の“Innovation”であるという現象について、一九八〇年代後半頃から、日本の競争力に対し欧米の産業・社会体質をイノベートする時に、経済学者ドラッガーが広く社会一般に起きるものと捉えて、世界に広めました。幸いにして、欧米の産業・社会体質はイノベートし、競争力が復活しました。

日本人も伝統的にこの“Innovation”の重要性を肌身で経験しています。日本が経済大国として成長できた条件の一つは、明治期と戦後期という二度の転機にイノベートな人たちを輩出できたことにあります。

“Innovation”は発見・発明がそうであるように、起きてその全容がわかるので、起きる前にはわ

かりません。これは、基礎研究に例えると、よくわかります。着手したばかりの段階では、実際に何が本当に役立つのか予測できません。その一方、基礎研究なしには未来がないこともわかっています。そのため、時代の潮流をよく捉え、困難な中でも新パラダイムの建設を継続していく志を真剣な思いで立て、それを堅持し、勇躍前進して道を切りひらいていかなければなりません。

そして、現下のメガ・イシューは日本固有の問題ではなく、世界の国々に共通するものであり、時として人間の歴史に起きるパラダイムシフトなのです。今行うべきことは、危機を訴えることではなく、日本と世界がパラダイムシフトをいかにスムーズに行うかを考え、行動することなのです。

こう考えてくると、私は諸君の新たな旅立ちに向けて、「随所作主」（随所に主たれ）という言葉を贈りたいと思います。

諸君はこれから様々な進路を歩まれることになります。人は様々であり、それ故様々な人生があり、様々な人の歩む道があります。諸君のかけがえのない道は、他の人には歩めない、そして二度と歩めない、自分だけの道です。その道を切りひらいて歩むことは、決して容易なことではありません。他人任せでは道はひらけませんし、思索にくれて立ちすくんでいても道はひらけません。

「随所作主」（随所に主たれ）は、中国・唐時代の臨済宗の開祖、臨済禅師の言葉です。どんなところでも自分のアイデンティティーをもって精一杯全力を尽くせ、という意味だと理解しています。つまり、どのような道、どのような仕事であろうとも、その先々で懸命に勉強して、その分野に関してのすべてを、そしてすべてについての何かを学び、誰にも負けないプロフェッショナルになることなのです。人生の途中では自分の思いどおりにならないことが多く、専門外の仕事を担当させられることもあるでしょう。しかし、それこそ素志貫徹によって新たに専門性を究め、幅を広げて自分を成長させるチャンスなのです。『たまには踏みならされた道を避けて、森の中に入りこむのがいい。今まで見たこともないものを発見できるに違いないからだ。』このグラハム・ベルの言葉には、時には寄り道や冒険をすることも必要であり、どんな寄り道でも最善を尽くすことで新たな道がひらける。そのような意味が込められています。歴史を変えるような偶然の発見・発明も、最善を尽くして準備をしない者に微笑むことはないのです。これが「随所作主」ということです。

私は長い間、金属材料の研究を続けてきました。若くして教授や助教授になる人もいましたが、私は下積みが長く、少ない予算しか持たずに研究を続けました。しかし、そんな環境下でも、研究課題

を辛抱強く追究することで、それが材料開発の新合金創成へ発展したという経験があります。勤勉の徳は、何にもまして尊いものです。言い訳ばかりしないで、今できることから始める。「随所作主」（随所に主たれ）という臨済禅師の言葉をかみしめ、いかなる場でも自分のアイデンティティーをもって、一ミリずつでも懸命にたゆまず歩み続けてください。

以上が、本日ここに学位記を授与された諸君に対する、私からのメッセージです。

諸君は、東北大学から旅立っても、東北大学のコミュニティの一員です。この緑に恵まれた美しいキャンパスで培った学友との友情と師弟の絆は、諸君の大切な財産となることでしょう。私たち東北大学は、これからも、いつでも、諸君に扉を開いています。諸君のこれからの人生にとって、いつまでも人生の羅針盤のような存在であり続けたいと思います。

東北大学は、世界各国からの学生が学ぶ大学です。留学生の諸君においては、言葉、文化、習慣などの壁を克服し、学位を取得された努力に対して深く敬意を表します。アルベルト・アインシュタインは「日本〜この国を愛し、尊敬しないではいられない。」と語っています。留学生の諸君には、この日本を、そしてこの東北大学を第二のふるさととして、母国と日本の架け橋となっていただきたいと思います。

ここで、英語により送別の言葉を述べたいと思います。

I, as president of Tohoku University, sincerely hope that your experiences and achievements in Tohoku University shall help you contribute to the development of your countries and to the world peace through your forthcoming activities.

The line between successful person and unsuccessful person is paper thin. The difference is tenacity and perseverance. Even when a task seems impossible, we must tenaciously and diligently persevere in our efforts to succeed. Then, Today's impossibility becomes tomorrow's reality. I believe you can make your dream come true. Heaven will not ignore sincere effort and true determination.

Finally, I wish to reiterate my hearty congratulation to all of you, and wish you every success in your future endeavors.

本日ここに学士の学位を授与された二一名の諸君、修士の学位を授与された九〇名の諸君、専門職の学位を授与された七名の諸君、そして博士の学位を授与された一三七名の諸君、今日は本当におめでとう。

東北大学で学んだことを大きな誇りとして、高い志をもって不断の努力を惜しむことなく、人生を最高に旅することを心より祈念して、私の式辞の結びといたします。

平成二三年九月二六日

東北大学総長　井上　明久